

健康生活の達人教室『キックオフ講演会』

【日時】 2017年3月13日（月） 13:30~16:30

【場所】 信州大学 松本キャンパス 地域保健推進センター 3階

【テーマ】 健康生活の達人教室『キックオフ講演会』

【内容】

- 「健康生活の達人教室」主旨説明 信州大学医学部 保健学科 准教授 日高 宏哉
- 「健康につながる食べ方とは」 料理研究家 横山タカ子 氏
- パネルディスカッション 「大麦の魅力と付き合い方」
- 【参加者数】 83名
- 【主催】 信州大学医学部保健学科、学術研究・産学官連携推進機構

本会は信州大学が進めるオープンイノベーションプラットフォームである、「信州リビング・ラボ」（以下：リビングラボ）構想の一環として開催。リビングラボでは長野県の特徴の1つである「健康長寿」に着目をする中、「健康生活の達人教室」を企画し、リビングラボの構想を基に、新たな手法を用いた産学連携の形を試みた。まずは、信州大学医学部保健学科 准教授 日高宏哉氏より大学、産業界、行政、市民の皆様と連携し、健康づくり・健康社会の構築を目指す取り組みであることと同時に自身の健康につなげていくと本会の趣旨を説明。また講師に料理評論家の横山タカ子氏を迎え、日々の食事での様に飽きず「もち性大麦」（以下：もち麦）を食べていくかのご提案をいただきました。パネルディスカッションでは開発の観点から長野県農業試験場から東山皮糯109号（ホワイトファイバー）」の特徴、小売の観点から㈱はくばく、日々の食事（もち麦の取り入れ方）から料理評論家の横山タカ子氏、進行に信州大学産学官連携推進機構地域連携推進本部部長の 林靖人が進行にはいり、それぞれの観点から「もち麦」の魅力について触れてもらい、参加者に「ホワイトファイバー」に興味をいだいてもらうと共に今後協力を抱いてもらいための本会とした。参加者からは、これまで、雑穀米など日常生活で取り入れている方から今後、もち麦を日々の生活で取り入れて行きたい方など幅広い参加者が参加された。



基調講演：横山タカ子氏



ホワイトファイバーの紹介(冊子)、レトルトパック